

私見創見 Saturday

今回で17回目、最後の寄稿となった。好きなことを書いても良いと言われて引き受けたが、この2年間、読者の皆さまにはどう評価いただいていたか定かたではない。じくじ

任の重さに押しつぶされそうになっていった。書いた内容は、巡り回って、ブーメランのように自分自身に戻ってくると言う重さである。
ある事象や現象を自分なりに十分調査した上で、否定的な考えを表したい場合、いくらか客観的な判断であると確信していても、いくらか正義であることも、その表現方法は極めて難しい。16回の中でも、幾つか編集部で修正を求められることがあった。
また、指定された文末表現では、「です」「ます」が使用せず、「である」「だ」にしなければならず、心優しい？私の表現ができないことから、本意を伝えきれないものごかしが最後まで消えなかった。
新聞の文章表現にはさまざまな制約があり、配慮も必要であることを身にしみて感じ

課題改善の談論風発に

た。お世話いただいたプロである。裏返ある編集局スタッフに感謝することともに、敬意を表した。例えは、2年前の第1回では、株式をキーワードに、投資と投機について書かせて

て、ある原則を貫いてきた。それは、自分が関わっている

下谷栄治

NORD58顧問事務所代表



しもや・えいじ
1951年、北海道生まれ。エネルギープロダクト取締役、みさわおもちゃ病院院長。室蘭工業大学卒。

吹越鳥帽子岳への観光道路、青森県が推進する都内のアンテナショップがそれである。また、あえて配慮したスタンスに、よそ者感覚がある。民放テレビ局の越県広域化による多チャンネル化、格安航空会社の参入を期待しての航空交通の利便性向上のテーマがそれである。

う専門家ではないが、目下株式市場を自指している会社の担務責任者として、このテーマから逃げられない中で、自分の考えを書かせていただいた。他にもいじめ防止問題、おもちゃ病院と子どもたちの情報教育問題、英語文化・教育問題、エネルギー問題など、いずれも私自身が直接関わり、その中で感じたことをテーマとさせていた。もう一つの原則として、できるだけ三沢市、上北郡あるいは青森県と言うように、地元と密接に関係することをテーマにさせていた。企業戦士現役時代とはひと味もふた味も異なる方々と触れあい、年を増すことに充実感とわくわく感も増してきている実感がある。人と人との触れあいには実に妙なものである。

幾つかのテーマで、拙稿に共感していただいた複数の方々とお会いし、意見交換したことがある。紙面では書ききれなかったこと、書けなかったことを含めて、自らの言葉で精いっぱい思いをお伝えした。すると、さらにコミュニケーションは深まった。読者の皆さまのお役に立たか否かの検証もできず、専ら自らの反省や収穫を整理し、自得する最終回となってしまうが、お許しいただきたい。

いつか、また読者の皆さまと紙面を通してお会いできる日が来ることを信じてペンを置かせていただきます。